

2024年 2月 8日

草津市議会議長 山元 宏和 様

草津市議会会派 公明党 西垣 和美

みらいの風 八木 良人

草津市議会 みらいの風の2023年度政務活動費実施研修（会派研修）について、下記のとおり報告いたします。

記

- 【タイトル】 Manifesto Awards Collection
(<https://maniken.jp/manitaiseminar/collection>)
- 【日時】 1月31日（水）14：00～18：00
2月1日（木）10：00～15：00
- 【場所】 早稲田大学井深大記念ホール 東京都新宿区西早稲田1丁目20-14
- 【主催】 ローカルマニフェスト推進連盟
- 【参加者】 草津市議会会派 公明党 西垣 和美
みらいの風 八木 良人 藤本 あき
- 【研修概要】 マニフェスト大賞は、地域の民主主義向上に資する優れた取り組みを表彰する取り組みです。18年間にわたり多くの地方議会が参加されています。今回の研修では、2日間にわたりマニフェスト大賞の成果を振り返り未来を展望するというテーマで開催されます。

【セミナー参加目的について】

現在、草津市では「議会だより」という広報誌が発行されています。この誌面は広報公聴特別委員会のチームが結成され、構成や内容の改善を行っており、誤字脱字などの細かい作業も行われています。しかし、残念ながら「議会だより」を好んで読む市民は少ないと言われてしています。その理由として、この誌面は年に4回発行される紙媒体であり、発行までに1カ月以上かかっているため、現代の日常においてはリアルタイムの情報発信が不足していると感じられる可能性があります。このような課題を解決するためには、草津市でも幅広い世代に向けて議会からの情報発信を行うためのアイデアを収集する必要があります。

また、2日目の議論では、若者の社会参画に焦点が当てられます。草津市では、高校生との意見交換会が実施されていますが、さらに社会が子どもたちと密接に関わるためにはどのような取り組みが必要かを考える必要があります。そのため、他の市町で行われているアイデアや取り組みを参考にし、学校と議会の関係や子ども基本条例に関する情報も収集したいと考えています。このような情報収集を通じて、草津市における若者の社会参画の促進につなげたいという目的があります。

【タイムテーブル】

Day1 [01/31 14:00-18:00]

“議会広報が変えた住民とのコミュニケーション”

- ・子籠 敏人氏（東京都あきる野市議会議員）
- ・山本 研一氏（神奈川県開成町議会議長）
- ・前田せつよ氏（神奈川県開成町議会副議長）
- ・片山 兵衛氏（北海道鷹栖町議会議会活性化委員会会長）
- ・川原 允氏（北海道鷹栖町議会広報広聴常任委員会副委員長）
- ・吉澤 康広氏（埼玉県寄居町議会議長）
- ・鈴木 詠子氏（埼玉県寄居町議会広報広聴特別委員会委員長）

- 事例発表（各 10 分）
- トーク・質疑（70 分）

“マニフェスト大賞が変えた議会と最新のトレンド”

- ・江藤 俊昭 氏（大正大学社会共生学部教授、マニフェスト大賞審査委員）
- ・中村 健 氏（早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長）

- 江藤氏講演（20 分 ※オンライン）
- 中村氏講演（20 分）
- 会場トーク（60 分）

総評

北川 正恭 マニフェスト大賞審査委員長

意見交換会

- 18 時 30 分から（2 時間）早稲田大学大隈ガーデンハウスにて開催

Day2 [02/01 10:00-15:00]

“若者の参画と意見反映シティズンシップの未来”

- ・西尾 真治 氏（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング主任研究員、マニフェスト大賞審査委員）
- ・木戸 ゆめ 氏（愛知県新城市若者議会 委員）
- ・池田 一彦 氏（こども選挙実行委員会）
- ・山本 晃史 氏（認定 NPO 法人カタリバ）
- ・土肥 潤也 氏（NPO 法人わかもののみち 代表理事）

- 西尾氏基調提起（15 分）
- 事例発表（各 10 分）
- トーク・質疑（60 分）

分科会

- [1] 「議会広報」分科会
- [2] 「議会改革の勘所と最新のトレンド」分科会
- [3] 「若者の参画と意見反映」分科会

総評

北川 正恭 マニフェスト大賞審査委員長

Day1 “議会広報が変えた住民とのコミュニケーション”



<p>東京都 あきる野市 ※別資料参照</p>	<p>紙面構成。 子育て世代など、ターゲットを絞る。(ヨコ：世代×タテ：地域) 特集(表紙×二ページ目とのリンク。子育て、消防) わかりやすい文章×写真。統一感。 動画QRを追加。 タイトル×写真×簡単なリード文 子どもたちの笑顔と新規読者を獲得するためのツール。 小学生の夢を語るコーナー</p>
<p>埼玉県 寄居町 ※別資料参照</p>	<p>議会だより。読まれない議会だよりを出す意味なし！ 議員による町民取材：名前、顔写真、コメントOKの人だけ もうすぐ選挙権コーナー、若い世代を掲載 取材力=広聴力 多くの町民が掲載されることでジブンゴトとして考えられる 立候補の促進、議会だよりで選挙への声掛け</p>
<p>北海道 鷹栖町 ※別資料参照</p>	<p>議員が中心に議会報をつくる。動画で説明。 目標「三期連続無投票を脱する」 テーマ「興味と理解」「傍聴者の増加」 動画で情報発信(議員が作成)。傍聴者が採点する議会通信簿。 通告前に一般質問勉強会を実施。 議会報を語ろうの会。カードゲームをしながら談話する機会。 休日議会(年に1度)サタデーライブ。(傍聴90名)</p>

<p>神奈川県 開成町 ※別資料参照</p>	<p>開かれた議会へ。日曜議会。議会報告会。模擬議会中学生。 議場を自習室として一般開放。出前授業。 改革をスタート。無料託児をスタート。 優秀議会改革賞を受賞。</p> <p>議会だより：改革、縦書き→横書き 一般質問の文字を半分に。 議会だよりの冊子をタブロイド判に。 読む×動画で見る議会。（読む広報誌×見る議会）</p> <p>Web でリアルタイムに発信。2クリックで情報収集できる仕組み。 ユニバーサルデザインを導入。 キッズページ。 議員が動く動画で議員紹介。 委員会の進捗状況がすぐにわかるシステム。 「質問前＋一般質問＋終了後」動画で3回インタビュー 動画で発信。広報誌とwebサイト。多様性と継続性 「開かれた議会」町民の代弁者であれ。開かれた議会の具現化。</p>
--------------------------------	---

“マニフェスト大賞が変えた議会と最新のトレンド”

▶江藤 俊昭 氏（大正大学社会共生学部教授、マニフェスト大賞審査委員）

昔と今の広報の違い。議会と住民との新しい改革。

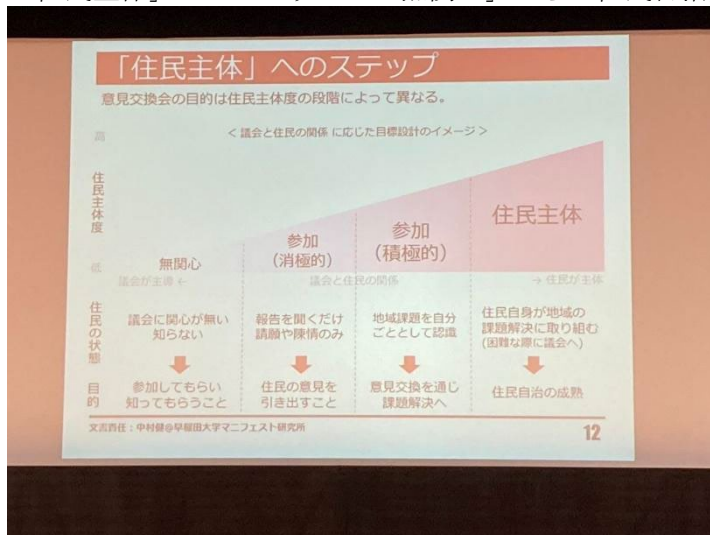
- 1 議会改革はどこまで進むのか
 - ・ 4年間サイクルで考える新しい考え方。
- 2 環境変化、地方分権改革。
 - ・ 行政改革&機関として作動する二元的代表制。住民自治の根幹
 - ・ 住民と歩みよる政治。
 - ・ ヨコ展開：善政競争ネットワーク。徹底的にパくる（TTP）重要。
 - ・ 住民の福祉向上＝議会からの政策サイクル
- 3 地方自治の特徴
 - ・ 二元的代表制：発展。多様性。
 - ・ DX推進。従来の議会運営からの脱却。
 - ・ なり手不足問題
 - ・ 議会事務局と議員の関係を見直す

▶中村 健 氏（早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長）

2003年初めてのマニフェスト。「お願い」から「約束」へ。

さまざまなマニフェスト

- ・ パーティマニフェスト：政党
 - ・ ローカルマニフェスト：地域課題解決
 - ・ 会派マニフェスト：政策実現集団
 - ・ 「マニフェストスイッチ」：様々な会派Mが見られるWebサイト。
- 情報…つくば市：全国初のネット投票。
「住民主体」へのステップ：「無関心」から「住民自治」へ



例) 戸田市議会

会派：政策集団：常任委員会単位で毎年テーマと成果を報告。

二年かけて研究して市に報告。深く研究する。

→期間を一年に変更。メンバーの固定化を防ぐため。

- ・ 視察先で学ぶ。課題の調査、市内・市外調査。二名一組で別々の場所に行く。視察後、全員で共有する。

→委員会として代表質問を行う。

Day 2 若者の参画と意見反映 シティズンシップの未来

▶西尾 真治 氏

(三菱UFJリサーチ&コンサルティング主任研究員、マニフェスト大賞審査委員)

市民とマニフェストの関わり

「マニフェスト・サイクル」(PDCAサイクル)

市民がいかにマニフェストに関わってきたか→マニフェスト大賞につながるポイント

例) 牧之原市

- ・対話と協働
- ・高校生がまちづくりの担い手・将来のリーダーとして位置付け
- ・学科に盛り込まれている

土肥 潤也 氏 (NPO 法人わかものまち 代表理事) ※別資料参照

静岡県

こども家庭庁に参画。子ども若者の意見反映(国も始動)

静岡県知事公開討論会を主催するなど、NPOで活動。

こどもの意見反映の義務化: こども基本法 → 義務付けられた

こども・若者を「対象から主体へ」。変化した。

子どもから意見を聞く、大人の考え方・社会環境を変革が必要

身近な問題(学校の校則・公園・児童館など)への参画や意見反映が重要。

子ども会議などで市政参加へ、つなげる。

木戸 ゆめ 氏 (愛知県新城市若者議会 委員) ※別資料参照

若者議会の成り立ち 海外のニューキャッスル市と交流

若者が主体となる団体が必要→ボランティア団体を設立

新城市若者条例・若者議会条例を策定

具体的: 1千万円の予算で市長の政策立案する付属機関。単年事業。

例: ふるさと情報館リノベーション事業、新城いいとこMAP事業、ぶかつなぎ事業
(他校の部活動をつなぐことで、単独校ではできない部活動もできるようになる)

池田 一彦 氏 (こども選挙実行委員会) ※別資料参照

「こどもが未来を変えていく」

子どもが実際の市長選にかかわる。

子どもたちが質問を3つ考えてインタビュー、子どもが選んで、候補者に届ける

主権者意識の芽生え～市政への参加機会

大人にも分かりやすい選挙メディア→子どもにわかる言葉で説明

ノウハウを共有し、全国でこども選挙を開催。

子どもが主役になる地域作り

山本 晃史 氏 (認定NPO法人カタリバ) ※別資料参照

ルールメイキング 校則を見直す場をつくる。

校則から身の回りのものを変えられるんだよ、というプロセスを学んでもらう。

全校生徒の多様な意見を聞く。地域住民との対話。

ルールメイキングのプロセス(小中高)

1 課題設定、②情報収集分析、③提案見直し

参考) 日本財団 「こども大綱に取り組んでほしいこと」

学校運営・目標・カリキュラム設計、地域などにも発展。

▶分科会

● [1] 「議会広報」分科会

Day1 に事例発表した登壇者とともに意見交換。

3 グループに分かれて、それぞれ自己紹介をした後、グループワークを行った。

● [3] 「若者の参画と意見反映」分科会

(内容)

前半に事例発表した5人の登壇者との意見交換。

5グループに分かれ、それぞれのグループに登壇者が参加し、登壇者にもっと深く聞きたいことについて意見を出し合い、その項目をグループ毎に発表し、登壇者に答えてもらった。

(項目)

・登壇者の育った環境について (特に遊びについて)

・子ども若者計画を作成する上でレベルアップについてと、ファシリテーション能力のアップの仕方

→ファシリテーション能力を上げるには、まずモデルでデモをやってアドバイスをする。子ども子育て支援計画の横すべりが多いと想定されるが、既存の子ども関連の三大綱を一本化したものであり、計画の幅を広くしないといけない。来年に策定されると思うが、本来なら、その計画に子どもの声を反映させなければならない。そうすると、既に予算化をしなければならない。いくつかの自治体で、予算化しているところがある。

・大人がどうすれば子どもの意見を聞く耳が出来るか。議員や議会の役割。

→一つには、子ども基本条例を議会主導で作ることだと思う

・子ども選挙を実施する上でのハードルが高かったことについて

→教育委員会の後援がどこも取れない。民間団体であり、政治的な中立が保てない、という理由。今回、初めて老崎市で教育委員会の後援が取れた。

【所感】

「議会だより」だけでなく、SNS・Webサイト・動画など様々なツールを用いて市民にアプローチする市議会が多かった。特に目を引いたのは開成町の「一般質問前後インタビュー（図1）」と鷹栖町の「アートな議会だよりデザイン（図2）」だった。



図1 「一般質問前後インタビュー」



図2 「アートな議会だよりデザイン」

「一般質問前後インタビュー」では質問の概要など説明した後に、一般質問、そして終了後のインタビューがコンパクトにまとめられており、分かりやすかった。

「アートな議会だよりデザイン」は一風変わったビラやチラシが参考になり、どこかの映画のチラシ風・家電量販店風のビラなど面白可笑しく惹きつけられるものがあった。

草津市ではより草津市民の方に寄り添った「議会だより」を提案していくための情報を収集することができた。

若者の「政治参画」については、様々な取り組みや提案を聞く中で、草津市でも参考にしていきたいと思ったのが、子ども計画の策定について、既存の子ども子育て支援計画に少し手を加える程度であれば、しっかり見ていかなければと思った。特に、当事者である子どもの意見をどう反映していくのか、については、確認をしていきたい。

アンケート調査は、ニーズ調査であり、意見聴取ではない、という意見が印象として残った。この計画は、この5年間、どうやって意見聴取をしていくのか、という計画でもある、とのことであった。その中で、実効性の担保をとっていくためには、子ども基本条例の必要性が言われた。そこに、議会の役割として、その条例制定を議会発動として取り組むことを提案された。

草津市として、検討していければと思った。